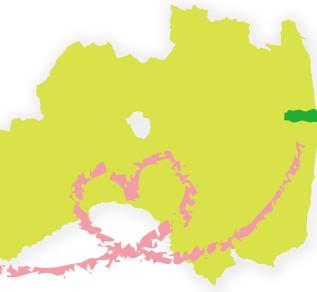


おおくまの糸



12.....希望の翼 34.....長原仮設夏祭り 5.....若薦会はしご乗り 6.....大熊中特設合唱部 78.....いわきおどり 9.....熊川稚児鹿舞

Content s

- 大熊町海外派遣事業「おおくま希望の翼」 2-3
- 長原仮設夏祭り・福島県若薦会復興はしご乗り 4-5
- いわきおどり&平七夕まつり 6
- 開業のお知らせ 7

- スマイルネットワーク「福島第一聖書バプテスト教会」 8
- 大熊町ふるさとまつり開催のお知らせ 9
- キラキラキッズ「大熊中学校特設合唱部」 10
- みんなのフォトギャラリー 11
- 熊川稚児鹿舞 12

おおくま希望の翼

一九九一年以来、大熊町の国際姉妹都市であるオーストラリアのバサースト市。震災後は多くの義援金をはじめ、励ましの言葉をいただきました。また、今年4月にはバサーストハイスクールから生徒十八名が福島県(会津)を訪れるなど、大熊町と海外派遣事業「おおくま希望の翼」で今年の夏も十九名の参加者が夢と希望を胸にバサースト市を訪問しています。



8月2日 旅立ち

成田空港から飛び立つ。オーストラリア上空に来ると、不安を感いたけれどドキドキやワクワクの気持ちの方が強かった。がんばって積極的に行こう!と気を引き締めた。

8月3日 オーストラリア到着

シドニー空港からバサースト市へと向かう。早速ホストファミリーと対面し、ホームステイ生活が始まった。ナイトパーティーへ出かけろと、派手な格好をした人たちがパフォーマンスを見せてくれた。最初は緊張したけど、頑張れば大丈夫かも。



8月5日 語学研修、牧場、もう一つの学校

バサーストハイスクールで語学研修がスタート。英語で会話するのは難しいけど、少しだけ話せた。午後からは牧場に行った後、市内にあるもう一つの学校も見学した。みんなフレンドリーで、カメラを向けるとポーズをとってくれて楽しかった。

8月4日 ホストファミリーとの休日

休日はホストファミリーと過ごしました。市内の観光スポットを見学して、オーストラリアやバサースト市の歴史を学びました。お昼は蜂蜜の専門店で買い物。夜は、日本から持ってきたカレーを2人で作りました。みんな喜んでくれて、とても嬉かったです。





オーストラリア連邦 ニューサウスウェールズ州 バーサースト市

オーストラリア東部に位置する高原の町。主な産業は畜産で、放牧による牛(食肉)や羊(毛糸)、馬、豚の大規模生産が行われています。

大熊町とは第1回「21世紀の翼(現『希望の翼』)」で訪問した

平成2年3月25日に友好都市を協定、翌年の第2回目の3月25日に姉妹都市を締結しました。



8月6日 語学研修とヤランビン

語学研修2日目。ホームステイ先の人と一緒に授業を受けた。同学年の人たちに自己紹介をした。難しかったけどできたと思う。午後からは乗馬体験。ガイドの話を何となく理解できた。カンガルーも見ることができたし、羊の授乳体験も可愛かった。今日も一日疲れました。



8月7日 語学研修 砂金取り

語学研修ではホストファミリーに手紙を書いた。自分の気持ちを英語で表すのは大変だったけど、書いて良かった。午後は砂金取り体験。砂金はすごく小さくてなかなか分からなかったけど、取れた人は嬉しそうだった。



8月8日 市内観光1

ホストファミリーとお別れをして、市内の観光をした。世界遺産のブルーマウンテン、動物園、シドニーオリンピック会場といろんなものを見学した。シドニーはすごく都会で、夜景がとても綺麗だった。



8月9日 市内観光2

今日はオペラハウスなどの観光スポットを見学した。お昼は久しぶりの和食でとても美味しかった。夜の飯は、通訳のソニーさんもみんな一緒にシドニータワーで食べた。夜景が綺麗だった。ソニーさんに、また絶対シドニーに来ると約束した。



8月10日 帰国

朝の6時頃日本に着いた。季節が真逆だから、とても暑かった。オーストラリアでの7日間は、とても楽しくて時間があっという間に過ぎてしまった。今回の経験を今後の活動に活かしたい。また、オーストラリアに行きたい。



文章は参加者の日記からの抜粋です。



去年に続き二回目となる長原仮設住宅での夏祭りが開催されました。今回は会津若松市内の仮設住宅をシャトルバスが運行し、多くの大熊町民が参加しました。

今回、夏祭りをサポートしたのは、東京の小岩で活動をやれている「甲和会」。同会は、地元の祭りで模擬店を出すなどして実質的な運営をしている、言わば祭りのプロ集団。今回も、輪投げやヨーヨーすぐい、的当てなどの子供たちが楽しめるものや、やきそばやかき氷といった祭りには欠かせないものなど数多くの屋台が軒を連ね、東京から訪れた甲和会員やその家族などがその多くを担当しました。

「震災後、自分達でイベントの時などに集めた義援金を、福島・宮城・岩手の各県に計四回に渡り送つてきましたが、もつと違った形で役に立ちたいと思つていました。」と話してくれたのは甲和会会長の宮下泰信さん。そんな時に、会津河東出身の東京東信用金庫の北小岩支店長からの話を聞き、現在、会津に多くの大熊町民が避難されていることを知りました。そこから大熊町商工会や

役場を通じて各仮設の自治会長を紹介しひらひ、自分達で何が出来るかというとの話し合いを始めました。

「炊き出しなども考えましたが、震災から一年が経つたいまでは、町民の方の一ี子に合わないと想い、甲和会が地元の小岩で行つてゐる『提灯神輿』を町民の方と一緒に担いで、思い出を作つてもらおうと思いました」。長原仮設住宅では去年も夏祭りを開催していた為、それと合同で行おうといふことで話はアシストン拍子で進み、今回は町役場も協力するということで「おおくま・甲和会合同夏祭り」という名称となりました。宮下さんを始め、数人の甲和会の会員は、打ち合わせのため三度に渡り会津を訪れたということですが、「三回目にはすっかり打ち解けてしまい、打ち合わせのあとの飲み会が楽しみになつていました（笑）」といったエピソードも笑顔で話していく





祭りには、長原仮設住宅から程近い会津中央病院からも二十四人の職員の方が駆けつけ、民謡「会津磐梯山」を踊り、その後、大熊町民と一緒に盆踊りを楽しみました。その後、辺りが暗くなつてくると、提灯のやさしい光が暗闇に浮かび上がるようになりました。拍子木に合わせた一本締めの後、担ぎ出された提灯神輿には、多くの町民も加わり、甲和会のみなさんと共に仮設住宅の中を練り歩きました。担ぎ手として参加した町民の方達は、息を切らしながらも楽しそうな笑顔で掛け声を上げていました。

福島県若鳶会 復興はしご乗り

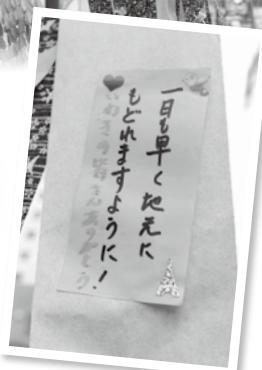
いわき市好間第一仮設 ◆ 8月18日(日)

いわき市好間第一仮設にて、福島県若鳶会伝統のはしご乗りが行われました。はしごの高さはゆうに六メートル三〇センチ。遙か上方で次々と繰り広げられる妙技に集まった人々は見入っていました。

相双若鳶会中田会長は「若鳶会の総会で六支部合同で県内各地をまわり、はしご乗りを披露することになりました。好間第一仮設を皮切りに福島県のみなさんの復興を応援をしたい」と語りました。



TOPICS



平七夕まつり & いわきおどり

8月6日㈭～8日㈯ いわき市平

いわきの夏の風物詩「平七夕まつり」と「いわきおどり」が八月六、七、八日の三日間に渡って行われ、今年も大熊町の七夕飾りが飾られました。「おおくま」の文字があしらわれた七夕飾りには、千羽鶴や願いを書いた短冊などがあり、道行く人も足を止めて眺める姿がありました。

まつりの最後を飾るのは今年で三十二回目を迎える「いわき踊り」。今年は百一十一団体、約六千三百人の踊り手が参加し「ドンワッセ」の掛け声と共にいわき駅前大通りを練り歩きました。大熊町からは「大熊町社会福祉協議会」チームとして、いわき市内で暮らす町民の方、大熊町社会福祉協議会、大熊町役場から合わせて四十五人が踊りに参加しました。会場には大熊町民も訪れていて、踊り手と言葉を交わす場面も見られ、また観客からも「がんばれ」などの声援が送られていました。

踊りに参加した方からは「初めての参加でしたが楽しく踊れました。途中からは頭が真っ白になつて、夢中になつて踊っていました」といつた感想が聞かれました。

いわきの夏の風物詩「平七夕まつり」が八月六、七、八日の三日間に渡って行われ、今年も大熊町の七夕飾りが飾られました。「おおくま」の文字があしらわれた七夕飾りには、千羽鶴や願いを書いた短冊などがあり、道行く人も足を止めて眺める姿がありました。

いわきおどり本番に向けての全体練習も三回に渡り行われました



揃いのTシャツと
ブルーの花を
つけての参加です



開業・開店のお知らせ

下宿大八荘

食事処「大八」を再開して1年が経ち、縁もあって近くに下宿「大八荘」をこの度オープンいたしました。震災前と同じ下宿を再開させることで、復興作業に従事されている方々をサポートし、少しでも復興の手助けができればと考えております。

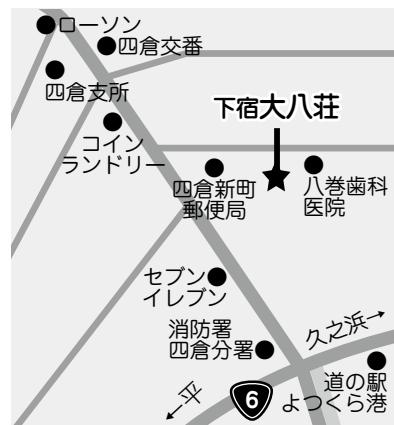
あったかい手料理を用意してお待ちしております。



宿泊料金 1泊2食付 6,500円(税込)

長期滞在の方、
ぜひご利用ください。

〒979-0201 福島県いわき市四倉町五丁目127
●TEL 0246-32-8088 ●FAX 0246-38-5251



共同印刷株式会社

この度、ふくしま産業復興企業立地補助金の認定を受け、郡山市日和田町の国道4号線沿いに新工場を建設し、7月より業務を開始いたしました。

これからは新天地におきまして、心機一転努力精進してまいりますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



郡山工場 〒963-0534 郡山市日和田町字南原2-5

●TEL 024-953-5520 ●FAX 024-953-5530

●ホームページ <http://0240.jp/kyodo/> ●E-mail kyodo@eos.ocn.ne.jp

南相馬営業所 ●TEL 0244-26-8613 いわき営業所 ●TEL 0246-38-8237



スマイルネットワーク

大熊のみんなの笑顔をお届け

7

震災の60年前より多くの大熊町民の心を癒してきた福島第一聖書バプテスト教会がいわき市にて再開されました。牧師の佐藤彰さんと副牧師の佐藤将司さんにお話を伺いました。



牧師
佐藤 彰 さん

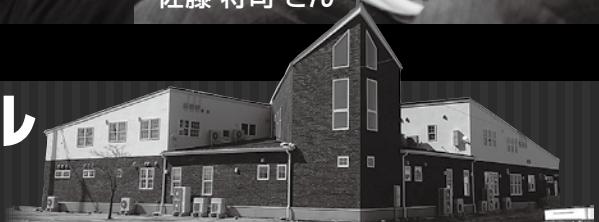


副牧師
佐藤 将司 さん

つばさが希望となり絆をつなぐ

福島第一聖書バプテスト教会 泉のチャペル

牧師 佐藤 彰 さん・副牧師 佐藤 将司 さん



いつ頃から教会としての活動を再開されたのですか？

工事が予定より遅れていたため、献堂式は五月十一日ですが、礼拝は二月頃から始めていました。献堂式には海外の方を含め全国から四百名の方が来てください、多くの寄贈も戴いて)の教会が完成しました。当時、佐藤副牧師が「このレンガの一枚一枚は国内外の誰かが捧げてくれたレンガです。」とお話ししましたが、本当に小さなお子さんをはじめ、たくさんの方のご厚意で今日を迎えたと思つております。震災直後、私達のホームページを見た沖縄の子ども達が街頭にて募金活動をしてくれました。また、沖縄からたくさんの食料や薬もいただきました。台湾からの支援もありました。それから始まつた励ました。いや絆が私達の大きな「力」になりましたね。

教会の再建を考えられたのはいつ頃ですか？

震災後、避難所を転々と回り、六十名の方々と会津から雪深い

米沢へ向かいました。一週間缶詰でしのぎ、東京の奥多摩へ向かう決心をしました。そこで初めてお会いしたドイツ人牧師の厚意を受け、「福音の家」キャンプ場で過ごさせていただきました。

七月に会議を開き、やつぱり福島に戻ろうと決め、一〇一年三月にいわき市に移るまでの約一年間お世話になりました。本当に有難かったです。

はじめは市内の教会を借りようと思いましたが、なかなかうまくいかなかつたので「ならば新しく建こよう」ということになりました。実は戦後すぐに大熊にて教会を開いた宣教師がその頃から「いすれはいわきにも教会を作りなさい」と言つていました。何が物語的なものを感じますね。

完成した教会の特徴を教えてください

この教会は「つばさ」をイメージして造られました。翼には「希望」と「絆」の意味があり、その翼で上に向かっていく「希望」。そして右と左の翼で「絆」

を繋ぐ。また傷ついた私達を包み癒してくれるという意味でも本当に良い教会が出来ました。ちなみにこの鳥の形をした教会が向いている方角は大熊町を指しているんです。

五月から行なつたコンサートも十回を数えております。有難いことにボランティアで色々な方が訪れてくださいました。そうやって教会に集まつた大熊町民のみなさんや他の避難地域の方の再会や出会いの瞬間に立ち会い、それ以外にもこのいわき市の地域の方との交流の場にもなつていて、ここに気がつきました。それがとても嬉しいですね。



2012年ふるさとまつりの様子



大熊町

ふるさとまつり 開催のお知らせ

大熊町民の絆を大切に……
今年は会津・いわきの2会場にてふるさとまつりを開催いたします!
皆様お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

in 会津

開催日時 10月5日(土)
午前10時～午後3時

開催場所 松長近隣公園仮設住宅駐車場
(会津若松市一箕町松長1-17-1)

内 容 ヒーローショー・芸能発表
餅つき大会・歌謡ショー
各種出店 等

in いわき

開催日時 11月9日(土)
午前10時～午後3時

開催場所 大熊町いわき連絡事務所前駐車場
(いわき市好間工業団地1-43地内)

内 容 未 定

お問い合わせ先

大熊町観光協会事務局
(大熊町商工会)
TEL 0242-29-5770



泉のチャペルは大熊町の方角へと翼を大きく広げています。

大熊のみなさんへのメッセージ

佐藤牧師——今でも大熊の教会に来られた方々を今はどこで元気にされているかな?と日々想っております。また私は今回の震災で辛い思いもたくさんしましたが、それ以上に多くの人間関係ができました。悲しみは簡単には消えないと思います。ですが必ず皆さんには「祝福」が訪れる信じております。どうか希望を持ってお過ごし下さい。

佐藤副牧師——震災後、教会に来てくれていた子ども達はじめ皆さんに会えるのは本当に悲しく寂しく思います。ですのでこの教会が再会の場所になっていることが本当に嬉しいです、ここが「希望」の象徴となり被災者と地域の方を「絆」で繋ぐ場所になれば良いなと思っております。



福島第一聖書バプテスト教会 泉のチャペル

〒971-8182 いわき市泉町滝尻泉町49
●TEL 0246-38-5757 ●FAX 0246-38-5758
●ホームページ <http://f1church.com>
●メール f1church@beige.ocn.ne.jp



KIRA★KIRA KIDS

Vol. 7

★大熊中学校 特設合唱部★



8月31日、いわき市アリオスで行われた県合唱コンクールの様子

大熊町立大熊中学校
〒965-0003 会津若松市一箕町八幡字門田9-2
TEL:0242-23-7214

大熊中学校特設合唱部は震災後の帰宅困難区域で唯一の特設合唱部として活動を続けており、現在部員は45名。その多くの生徒が吹奏楽部の掛け持ちや運動部を引退した3年生で頑張っているそうです。

顧問の佐藤先生は「今年はおかげさまで多くの生徒が集まってくれました。そして多くの方々から新校舎をはじめご協力を頂きましたので、なるべく多くのコンクールに参加し、ステージで演奏させてあげたいです。そうした中で子ども達が頑張ってる姿を町民の皆様にお伝えできれば良いなと思います。」と熱くおっしゃっていました。

また、仮校舎では図書室を借りての練習でしたが、新しくなった校舎では防音設備の整った教室で練習が出来るようになりました。お隣の会津大学短期大学部さんからも体育館やグラウンド等、施設の一部をお貸しいただき、以前に比べ環境的にも充実しているそうです。

特設合唱部部長の青山明加(さやか)さん(3年)は「会津に来てたくさんの方にお世話になっておりますが、まだ私達自身は恩返しが出来ていないので、感謝の気持ちを歌や音楽を通して伝えられればと思っています。」と力強い言葉でおっしゃっていました。

今後の予定としては、10月21日に広野町で開催される「ひろの童謡まつり」や大熊中学校文化祭での演奏が予定されています。町民の皆様も子ども達の熱い心の込もった歌声をお聴きください。



みんなの フォトギャラリー



前号で掲載いたしました吉田秀夫さんの写真のタイトルが間違っていました。正しくは「熊川区小良浜班第2回懇親会」となります。訂正してお詫び申し上げます。

みんなのフォトギャラリー投稿募集中!

●①お名前②大熊町での大字名③現在お住まいの都道府県や市町村名④写真のタイトル⑤コメントをお書きの上、下の応募先までご送付ください。
※匿名をご希望の際は、その旨お知らせください。※掲載はモノクロになります。※ご応募いただいた原稿は返却できませんのでご了承ください。



「おおくまの絆」では、みなさんからの
大熊に関する情報を大募集しています!



特集してほしい場所・出来事・お店・イベントのレビューや求人など、大熊の人や町に関係することならなんでもOK!あなたの情報をお待ちしております!

メールでの応募先

okuma@next-hamashin.co.jp (右のQRコードからも
メールを送れます。)



郵送での応募先

〒965-0873 福島県会津若松市追手町2番41号
大熊町役場 会津若松出張所総務課「おおくまの絆」係



2010年8月26日の様子。



教える側、教わる側とも真剣です。



夏の暑さの中、汗がにじみます。



夏の風物詩となっている「熊川稚児鹿舞」の練習を懐かしそうに見つめる熊川地区の人達。



受け継いでいく子供達 左から

佐藤弥琴君(いわき市立御厨小2年)・廣嶋大吾君(熊町小4年)
廣嶋周吾君(熊町小2年)・佐藤一汎君(いわき市立御厨小4年)



三百年の伝統を受け継ぐ

熊川稚児鹿舞

熊川地区に約三百年前から伝わっていたとされる「熊川稚児鹿舞」。毎年八月二十六日に諏訪神社に奉納されていたこの行事は、震災後、止む無く途絶えることになってしまったが、現在、保存会の人達によつてその舞がまた再開されています。

海岸に近い熊川地区は、津波の影響も大きく、多くの家が流されるなど甚大な被害を受けました。諏訪神社も例外ではなく、奥の院だけを残し、その全てが津波によって流出してしまいました。稚児鹿舞の道具も流されてしまつたことから、一時は存続の危機に立たされました。福島県から道具の制作費などの補助を受けられることになり、去年の八月、保存会の人達で話し合いを持ち、「熊川稚児鹿舞を後世に残していく」ということを決めました。当初、子供たちが集まると思わなかつたことから、保存

会の人達で舞を行ふことも考えましたが、やつてみたいという子供達四人が手を上げ、復活に向けての一歩を踏み出しました。今年の春から再開された練習は、月に二回程度、会津若松市の長原仮設住宅内の集会場で行われていますが、佐藤一汎君と弥琴君の兄弟はいわきで暮らしてしたり、教える人達も県内外の他の地域で暮らしている方がいるので、練習の機会を作るのも大変な状況です。その中で複雑な舞の動きを覚えることに、子供達は悪戦苦闘している様子でしたが、保存会の人達が、自分の体に叩き込まれた舞の動きを子供達に手取り足取り教え、暑い集会場の中で熱のこもつた練習が行われていました。

みんなのおもいをつなげる大熊町コミュニケーション誌

おおくまの絆

2013年10月発行

発行 大熊町

大熊町役場 会津若松出張所
〒965-0873 福島県会津若松市追手町2番41号 (会津若松市役所 追手町第二庁舎内)
フリーダイヤル 0120-26-3844 代表(8時30分～17時15分) FAX 0242-26-3794
E-mail okuma@town.okuma.fukushima.jp
ホームページ <http://www.town.okuma.fukushima.jp/>